

期中の評価個表

事業名	国有林直轄治山事業		事業計画期間	昭和63年～平成24年
事業実施地区名 (都道府県名)	アフトロマナイ川 (あふとろまなにかわ) (北海道)		事業実施主体	北海道森林管理局旭川分局 宗谷森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は利尻山を頂点とする、利尻島東部扇状地で源頭部には大規模な崩壊地があり、この大崩壊地からの土砂生産活動が活発なため古くから治山工事が実施され一定の成果を得てきたところである。</p> <p>しかしながら、渓床には不安定土砂が大量に堆積しており、降雨等により土石流が発生していたことから、不安定土砂の流出防止、山脚固定及び渓床の浸食防止を図り下流域の保全及び保安林機能の増進を目的に本事業に着手した。</p> <p>また、事業着手直後の平成元年～2年に発生した土石流は海岸にまで達し、沿岸漁業等に甚大な被害を与えたが、平成11年に発生した土石流では、これまでに施工した床固工等の施工により渓床勾配が緩和され、土石流を拡散させるなど、渓床・渓岸の洗掘も少なく施工の効果が現れている。</p> <p>主な事業内容： 溪間工 37 基 山腹工 1.5 ha</p>			
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>事業着手時と現在において、要因に大きな変化はないが現時点における費用対効果分析結果は以下のとおりである。</p> <p>総費用(C) 2,211,538 千円 総便益(B) 2,940,181 千円 分析結果(B/C) 1.33</p>			
森林・林業情勢、農山漁村の状況その他の社会経済情勢の変化	<p>当地区は利尻山を頂点とする直径18kmの円形をした火山島で、標高400m以下は典型的な扇状地となっており、渓床に不安定土砂が堆積している。</p> <p>周辺の社会経済状況については特段の変化はない。</p> <p>保全対象：人家32戸 道道600m</p>			
事業の進捗状況	<p>渓流の不安定堆積土砂の流出防止及び渓岸浸食の防止を図るため治山ダムの整備を進めており、平成15年度までの事業の進捗率は55%（事業費）の見込みである。</p>			
関連事業の整備状況	<p>下流部において砂防事業による導流堤、ダム工が設置されており、上流部の国有林においても水土保全機能等の高度発揮が求められている流域である。</p>			
地元（受益者、地方公共団体等）の意向	<p>当地区においては、継続的な整備が進められ土石流対策の効果が上がっているが、大雨による土砂の流出により水産資源に大きな被害を与える恐れがあることから、渓床に堆積している不安定土砂の除去や法面保護の緑化等について特段の配慮を頂き、未整備区間の早急な整備を要望する。（利尻富士町）</p> <p>発生源の早期復旧のため本事業の継続実施を要望する。（北海道）</p>			
事業コスト縮減等の可能性	<p>資材運搬路の路盤材として現地発生材の利用やダム本体と間詰の一体施工による型枠等工事資材の節減による事業費の低減を図っており、今後も一層のコスト縮減に努めることとしている。</p>			
代替案の実現可能性	<p>該当なし</p>			
第三者委員会の意見	<p>今後も周辺環境に配慮しつつ事業を継続実施することが望ましい。事業効果のPRに一層の努力を期待する。</p>			
評価結果及び実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 崩壊地からの土砂生産及び渓床に堆積する不安定土砂の状況から、異常気象時には下流に被害を与える恐れがあること、地元からも流域保全と渓岸の森林復旧のため事業の実施が求められていることから、不安定土砂の流出防止、森林復旧等を図り、下流域の保全等のため事業の実施が必要である。 ・有効性： 事業の実施により渓床に堆積する土砂の安定など下流域の保全等が図れることから、事業の有効性は認められる。 ・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また事業実施に当たってもコスト縮減に努めていることから、効率性は認められる。 <p>上記の から の各項目及び各観点からの評価、並びに第三者委員会の意見を踏まえて総合的に検討したところ、事業の継続実施が妥当と判断される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施方針：継続 			